

AASSA-SCJ ワークショップ
2017 年 3 月 1 日～3 日、於東京
議長総括
組織委員長 吉野 博

・この 2 日間、日本／東京において、「包摂的な社会のための科学の役割」というテーマで AASSA-SCJ ワークショップが開催され、大変有意義な議論が行われた。

・アジアには、多様な地域が存在しており、包摂的社会を実現し、国連持続可能な開発目標 (SDGs) を達成するためには、科学者は協力して多くの複雑な課題に取り組む必要がある。本ワークショップでは、アジアに内在するさまざまな社会システムに関する課題を科学的な観点から深く議論した。

・全体の議論を総括すると、以下の 5 つの点が重要とされた。

① アジア地域における多様性の尊重

・包摂的な社会の実現のためには、科学者は社会における多様性とそれを踏まえた科学の活用により一層目を向けて科学の適用に取り組んでいく必要がある。

・基調講演及び各セッションで、科学が多様な人々の社会における活躍に大きく貢献しうることが示された。具体的には、障害者の活躍の場の拡大、高齢者の健康増進と社会参加、移民の受容、女性の活躍促進、格差・貧困問題などへの科学研究と適用の重要性が議論を通して示された。

・アジアは多様な文化を擁しており、多様性はアジア社会の強みであり、より豊かな社会を実現するためには、その多様性を十分に活用しなければならない。科学技術の進展は全ての人々が何の不便も感じずに社会に参加することを可能にする。

・その際、個々の地域やコミュニティの強みやニーズを十分に考慮するとともに研究段階から社会のステークホルダーを巻き込んでいく「共創 (Co-creation)」が重要である。

② 包摂的で持続可能な社会を目指した各科学分野同士の相互連携の推進

・科学者は既存の枠組みを超えて協力し、研究の目的を深化させていく必要がある。

・2 日間の議論では、アジアが抱える課題の複雑さが指摘され、これに対応するためには、科学者が既存の縦割り構造 (サイロ) を壊していくことの重要性が共通の認識として示された。

・具体的には、気候変動や地質学的なリスクに対するアジア地域の脆弱性は、異分野の科学者の協力を要求している。高齢者の健康推進においては、医学や生理学の最新の知見の適用に加え、都市構造や建物のデザインにもイノベーションが必要である。女性の活躍を推進するためには社会全体での取組が不可欠である。これらは「新しいシステム・アプローチ」とでも言うべきものである。

・特に女性の活躍に関しては、AASSA のこれまでの取組を踏まえ、今回議論が深められたことを高く評価したい。

③ 将来的にアジア地域に内在する課題を解決しようとする長期的な視点

- ・2 日間の議論では、科学者がアジア地域に内在する課題に関する長期的なビジョンを持って研究に取り組むことの重要性が指摘された。

- ・気候変動による影響の緩和や適合は喫緊の課題だが長期的なタイムスケールで対応する必要がある。移民受容や高齢化などの人口問題も社会や地元産業への長期的なインパクトを考慮しなければならない。また、科学技術の急速な進展はアジアにおける農業・食糧を取り巻く状況を大きく変える可能性がある。特に技術の進歩は地域に即した一次産業のカスタマイズを可能とし、地域の産業ひいては人口バランスなどにも長期的な影響を及ぼす。このことはアジアにおいて産業の高度化が進む中で大きな意味をもっている。

④ 科学技術により急速に変化した社会へのテクノロジーの貢献

- ・各セッションにおいて、科学と社会との関わりについて多くの時間が議論にあてられた。一時的には様々なあつれきはあったとしても科学技術は社会の進歩に役立つというのが我々の結論である。

- ・具体的には、農薬使用に関するスリランカ社会の反応や日本における東日本大震災後の科学に対する人々の見方などが議論され、科学の有用性を適確に人々に理解してもらうことの重要性が示された。その際、科学技術に関する「リスク」を適切に評価し、人々に理解してもらうことが特に重要である。また、ソーシャル・ネットワーキング・サービス（SNS）などの新しいツールを含む最新の科学技術と社会のかかわりについても本質的な議論が行われ、科学自体の自由や包摂性の確保が、科学技術を社会にとって有用なものとするために不可欠であるとされた。

⑤ SDGs の重要性の認識と今後の取組

- ・SDGs は、世界が持続可能に発展していくための行動目標である。

- ・本ワークショップの議論全体を総括すると、アジアにおける包摂性の追求を通じて、科学技術は SDGs の実現に大いに貢献しうると言える。

- ・いくつかの例を挙げれば、障害者や高齢者の活躍に関する科学技術の役割は、SDGs の目標 3 の健康に資するものである。また、食糧生産における科学技術の役割、女性科学者の活躍、高齢者向けまちづくり、ユニバーサルデザインにおける科学技術の貢献は、それぞれ対応する SDGs の目標に資する。フューチャー・アースの取組も SDGs 全体の達成に貢献する。

- ・AASSA を始めとする国際学術団体や各国アカデミーは、今回の議論を踏まえ、SDGs の実現に向けたエビデンスに基づく科学技術の貢献に関する取組を深めていてもらいたい。

- ・最後に、議長より宣言案の提示があり、議論が行われた。